

1

研究の背景および必要性

Research Background and Necessity

目次

- ① 東学思想と大巡思想の紹介
- ② 東洋の自生的近代性概念
- ③ 西洋近代性の東洋起源
- ④ 代替的近代性の重要性
- ⑤
- ⑥ 大巡思想の哲学的思惟方法論
- ⑦ 研究の意義および期待効果
- ⑧ 結論

東学思想と大巡思想の紹介

東学思想(東學思想)

- 崔濟愚(水雲)によって1860年に創始された韓国自生の宗教思想
- 「東学(東學)」という名称は西洋の「西学(西學)」に対応する東洋の自生的
- 近代性の追求。物質中心の西洋近代性に対応する倫理的省察と宗教的
- 哲学を提示

哲学的思惟方法論として東西の思想的融合の模索



大巡思想(大巡思想)

姜甌山(1871-1909)によって体系化された「参東学(參東學)」としての思想体系

- 「作乱(作亂)する者は水雲(水雲)であり、治乱(治亂)する者は甌山(甌山)」という観点からの東学の継承および発展。東学が提起した問題意識を解決し完成しようとする哲学的試み
- 自生的近代性の哲学的思惟方法論をさらに体系化
-

東洋の自生的近代性概念

自生的近代性の定義

西欧の外来思想に基づかず、東洋内部の文化的・哲学的基盤から自体的に発展した近代的思惟構造と世界観

東学と大巡思想における自生的近代性

- 東学の「西学(西學)」と対比される「東学(東學)」
- 概念。儒教的伝統から拡張された新たな思惟体系
- 哲学的思惟方法論としての「学(學)」の再定義。
- 大巡思想の「参東学」としての自生的近代性の体系化

西欧的近代性	東洋的自生的近代性
物質中心文明	人本主義と倫理的省察中心
道具的理性の重視	人間と自然の調和の追求
自然と人間の分離	天地人(天地人)合一思想
個人中心的合理性	共同体的相生と後天開闢

“ 自生的近代性の現代的意義

「東学思想と大巡思想が自生的近代性として様々な方面で研究されてきたが、既存の研究では「東学」という名に前提された東洋の哲学的思惟方法論、すなわち東洋的・韓国的哲学思惟方法論に関する研究が不足していた」

西洋近代性の東洋起源

西欧近代性の再発見

マテオ・リッチ(1552-1610)が東洋文明を西洋に伝播



儒教的倫理体系と思考方式が西欧啓蒙主義に影響



IT技術の発達により西欧近代性の東洋的起源が再照明される

主要研究者たち

東洋圏の学者

- ◆ 朱謙之(朱謙之) – 『中国が作ったヨーロッパの近代』 黄泰淵 – 『儒教的近代の一般理論』
- ◆ 趙惠仁、全洪奭、李寧宰、李東熙など

西洋圏の学者

- ◆ フランク(Andre Gunder Frank) – 『リオリエント』
- ◆ ホブソン(John Hobson) – 『西欧文明は東洋から始まった』
- ◆ クリール(Herlee G. Creel)、ライヒヴァイン(Adolf Reichwein)など

「東洋では近代化の障害要素と指摘された儒教が、むしろ西欧では近代性の起源であった」

代替的近代性の重要性

西欧近代文明の危機

- ⚠ 核兵器開発と拡散による人類絶滅の危機。環
- 🌍 境汚染と気候変動による地球的危機。物質中
- 🏢 心の近代性と技術発展の不均衡。共同体意識
- 👥 の弱体化と倫理的省察の不在

「現代の思想家たちは代案的近代性を倫理的省察と宗教的回帰に求めている」

東学大巡思想の代替的近代性

- ⚖ 物質と精神の調和的世界観の提示。人
- ♥ 間と自然が共存する倫理的価値観。東
- 🔄 西洋思想の融合と相互補完的アプロー
- 👤 チ。宗教的省察に基づく近代性の再構
成

「脱近代性の論議によって代案的近代性を準備してきたポストモダニズムの思想家たちもまた、近代性の代案を自生的近代性と同様に倫理的省察と宗教的回帰に求めている」

東学大巡思想の哲学的思惟方法論

東西融合的思惟

- ◆ 東道西器論(東道西器論):東洋の道と西洋の技術の調和。中
- ◆ 体西用論(中體西用論):東洋の価値を中心に西洋の方法を活
- ◆ 用。西学に対応する自生的近代性としての「東学(東學)」

東アジア的論理体系

- ◆ 陰陽五行(陰陽五行)に基づく思惟体系
- ◆ 相関的思惟(correlative thinking)の特性
- ◆ 西洋科学の線形的因果関係と異なる多重因果関係の体系

学(學)の意味の拡張

- ◆ 宗教を「学(學)」として理解する東アジア的特
- ◆ 性。性理学で提示された「学」の総体的思惟体
- ◆ 系の継承。心(心)の問題を論じつつも現実的問
- ◆ 題解決を志向。東学の修養論的側面と韓国的人文学のアイデンティティ

科学哲学的意義

- ◆ バシュラール、ラカン、フーコーなど現代科学哲学との
- ◆ 接点。地水火風(地水火風)のような伝統的科学観の再評
- ◆ 価。認識論的断絶(Epistemological Break)とパラダイム概念。西洋科学観の限界を補完する代案的思惟体系

研究の意義および結論

研究の意義

- 東学大巡思想の哲学的思惟方法論が現代の学問に寄与しうる可能性の発見。
- 西欧中心の近代性を超える代案的近代性模索の土台構築
- 東西洋哲学の対話と相互理解のための方法論的基盤の提供
- 。韓国の人文学と哲学の世界化のための学問的基礎の準備

結論

東学思想と大巡思想に込められた自生的近代性と哲学的思惟方法論は、今日物質中心の西欧近代文明がもたらした地球的危機に対する重要な洞察を提供する。

本研究は哲学的実践的意義を共に照明することで、未来の代案文明構築において韓国思想が寄与しうる可能性を提示する。特に「学(學)」の本来の意味を蘇らせ、現代学問と人類文明の方向性に新たな視角を提供することが期待される。